

仏女新聞

仏女新聞社 飯島可琳

お住まいの地域で梅の花はどれくらい咲いていますか？だんだんと春らしくなってきました。日によって気温の差が激しいので、その日にあった服装でお出かけ下さい。インフルエンザにも気をつけましょう！

今月は・・・

- 1 伏見稲荷大社 初午大祭
- 2 長谷寺 だだおし

伏見稲荷大社 初午大祭

伏見稲荷大社と言えばなんと「きつね」も「たくさんの鳥居」と「きつね」だらう。境内のいたるところに對のきつねが安置されている。面白いことに、きつねが口にくわえているものはそれぞれ違う。鍵をくわえていたり、稲穂



をくわえていたり、巻き物をくわえていたりする。どこに何があるか、境内をくまなくまわって確認したくなる。きつねの居場所によってくわえているものも決まるのだろうか。

初午の「午（馬）」とお稲荷さんのシンボル「狐」に直接の関係があるわけではない。お稲荷さんが稲荷山に鎮座したのが初午の日だったのが、初午大祭の起こりだそう。



神社のお祭りという
と、雅楽と
砂利を踏む
音だけが響
く中を神官
一行がしず
しずと歩い

て行くのを想像してしまふ。しかし、初午大祭は参道の商店街全体が正月

のようににぎわっている。「稲荷大社」のお祭りではなく「伏見地区」のお祭りという感じだ。街全体がうるおっているようなこの感じは何なのだろう？これこそが、もしかしたらお稲荷さんのめぐみなのかもしれない。

長谷寺 だだおし

奈良に春を呼ぶお祭りを「北のお水取り、南のだだおし」と呼ぶようになったそう。北のお水取りは毎年何度も通っているが、南のだだおしはこれまで一度も見たことがなかった。

だだおしは東大寺のお水取りと同様、長谷寺の修二会だが、お水取りとは違う点がたくさんある。私が結願に行ってお水取りと違うと一番感じた点は僧侶と参拝者の「距離」だ。お水取りに比べると、だだおしは私たち参拝者と行法を行う人たちとの距離が近い気がした。



お水取りは女人禁制だ。お香水をいただくときも格子を境に手を伸ばす。そのせいもあるのだろうが、練行衆と自分との間に隔たりを感じるのだ。ただ、俗世との距離感もお水取りの魅力

の一つだといえる。一方、だだおしは特に鬼が松明を持って暴れるときは、

観客との距離が非常に近い。火が顔の近くまでせまるので、誰もがのけぞる。火を目からただの光という情報として感じるだけでなく、肌にしっかりと熱さが伝わってくるのが分かった。



鬼は人間の邪心を表しているといわれている。鬼が持つ松明も人間の邪心の一つのはずだ。だとしたら、

鬼というかたちになった私たち人間の悪しき心が発する熱さを肌で感じることも大切なのではないか。

だだおしでは、自分の心の中に
ある邪心と
向き合う機
会を仏に与
えてもらっ
ているよう
な気がした。

